

令和2年度 第1回さいたま市親の学習プログラム改訂協議会 議事録

1 開催日時

令和2年9月4日（金） 午後2時から午後4時まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者

〈委員：5名〉

- ① 森田 圭子 委員長
- ② 西川 正 副委員長
- ③ 田中 亜弓 委員
- ④ 丹野 春香 委員
- ⑤ 長谷川 広美 委員

〈事務局：13名〉

- | | | |
|--------------|------------|--------|
| ① 生涯学習総合センター | 館長 | 吉田 治士 |
| ② 生涯学習総合センター | 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 生涯学習総合センター | 主幹兼事業・企画係長 | 有江 良修 |
| ④ 生涯学習総合センター | 事業・企画係主事 | 岡 有香 |
| ⑤ 生涯学習総合センター | 社会教育指導員 | 伏見 浩美 |
| ⑥ 生涯学習総合センター | 社会教育指導員 | 松本 みはる |
| ⑦ 指扇公民館 | 社会教育指導員 | 本山 洋美 |
| ⑧ 馬宮公民館 | 館長 | 岩崎 まさみ |
| ⑨ 内野公民館 | 社会教育指導員 | 成尾 千里 |
| ⑩ 三橋公民館 | 社会教育指導員 | 安居 和子 |
| ⑪ 大宮東公民館 | 社会教育指導員 | 伏見 怜奈 |
| ⑫ 仲町公民館 | 社会教育指導員 | 最首 紀子 |
| ⑬ 大古里公民館 | 社会教育指導員 | 小幡 賀子 |

4 欠席者名

〈事務局：1名〉

- ① 生涯学習振興課 課長補佐 荻原 唯史

5 協議事項

- (1) 親の学習事業の概要と実施状況について

- (2) 親の学習プログラム改訂の方針について
- (3) 改訂に係るアンケート結果について

6 配布資料

事前送付資料

- (1) 親の学習プログラム改訂に係るアンケート【資料5】

当日配布資料

- (1) 第1回さいたま市親の学習プログラム改訂協議会次第
- (2) 第1回さいたま市親の学習プログラム改訂協議会出席者名簿
- (3) 第1回さいたま市親の学習プログラム改訂協議会席次表
- (4) さいたま市親の学習事業の概要と実施状況について【資料1】
- (5) 親の学習プログラム改訂の方針について【資料2】
- (6) さいたま市親の学習プログラム改訂協議会設置要綱【資料3-1】
- (7) さいたま市親の学習プログラム改訂協議会運営要領【資料3-2】
- (8) さいたま市親の学習プログラム改訂協議会委員の謝礼に関する要領【資料3-3】
- (9) さいたま市親の学習プログラム改訂協議会委員名簿【資料4】
- (10) 親の学習プログラム改訂に係るアンケート【資料5】
- (11) 親の学習プログラム改訂素案について【資料6】
- (12) 親の学習プログラム改訂協議会スケジュール（予定）【資料7】

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 協議内容

各委員への委嘱状交付のうえ、委員長、副委員長を委員の互選で選出後、協議事項を検討。

協議事項（1）親の学習事業の概要と実施状況について、【資料1】に基づき、生涯学習総合センターより説明。

協議事項（2）親の学習プログラム改訂の方針について、【資料2】に基づき、生涯学習総合センターより説明、協議事項を検討。

田中委員	開発の視点の米印、『父親が参加しなくても「パパ応援」に繋がるプログラム』というのは、プログラムに参加はしないけれども、子ども
------	--

	もにとって、パパに関して何か気持ちを持ってもらうということか。
岡事業・企画 係主事	母親が親の学習講座を受け、家庭に戻られた時に、家庭内の会話などにおいて父親へ波及していくようなプログラムと理解している。
西川副委員長	方針の「親の学習プログラムの特徴」は前から同じか。今回改訂に際して、方針そのものを議論するのか、すでに決まっている方針に沿って議論するのか。
岡事業・企画 係主事	1の基本方針については、今回の改訂に際し事務局側で方針としてお示しした。2の改訂のポイントについては、前回の改訂を行った際のポイントを示しているなので、検討していただく中で、変動は十分にあるかと思う。
森田委員長	1の基本方針は、今回の改訂していくための基本方針。2の改訂のポイントは、前回の改訂の細かい視点や、結果としての特徴が挙げられている。今回の改訂では2の改訂のポイントについては1の基本方針に基づき、前回のポイントも参考にしながら、私たちがここで揉んで良いと。
西川副委員長	基本方針は今回の改訂のというより、親の学習事業そのものの方針で、変わらない。改訂のポイントは前回のものなので、議論してこの部分を変えることは良いと思う。
森田委員長	前回の改訂のポイントを参考に、何かご意見をいただければ。
丹野委員	特徴の3点目で、子どもの年代別の参加者の対象を絞ることもできれば、すべての親が参加できるプログラムという、特徴を持つということが策定時のポイントとなっているが、ここで書かれているすべての親は、どういう特性を持った親を想定されているのか。単純に子ども年代に限らないということか。
岡事業・企画 係主事	すべての親は、委員ご指摘の、子どもの年代によつての親や、すべての保護者ということで、祖父母やプレパパ・プレママも含めると理解をしている。
丹野委員	そうすると、親という書き方でなくてもいいのでは。例えば1人親の方、或いは貧困世帯、それに準ずる家庭の方、親と言ってもいろんな背景がある、みんなが経済的にも安定していて、両親がいて育てているわけではないので、そういう困難を抱えている養育者にもアプローチできるようなプログラムがあれば良い。どういう親にアプローチをしていくのかは、皆さんのこれまでの経験踏まえて、ご意見を伺いたい。
田中委員	アンケートの中にもあるように、未就学児の子ども、小学生、中学生だったり、孫育てだったり、幅広くある。それぞれのプログラムの中で、相応の人の層にあてがったスポットの講座を企画していくものだと思う。

	<p>また、今回協議会が全3回の開催、各回がそれぞれ2時間程度ということで、どこまで今日進めていくのか、現在のプログラムを絞っていくか、プラスしていくか。私たちが実際に使いやすいよう、実態にあったものにしていくには、時間を区切って話し合う方が効果的かと思う。</p>
森田委員長	<p>このあとアンケート結果報告の後に方針について協議し、素案にも入っていく。アンケート結果まで伺い、そのあと方針も含め、プログラム増やすのか、削るのか、削って必要なものを足すのかについても、協議したい。</p>
長谷川委員	<p>今回の改訂に際して、もちろんファシリテーターが活用しやすいプログラムにするべきだと思うが、5年ぶりの改訂ということと、親の学習事業はやはり公民館の講座であるので、公民館職員との連携も視野に入れて改訂できるとさらに良い。もっと円滑に運営ができるような内容に変更できると良い。</p>
森田委員長	<p>公民館職員との連携について、何か言及があった方が良いということか。</p>
長谷川委員	<p>言及まで至らなくとも、アンケートにおいて物語られている、職員とファシリテーターとの意見の相違などについても、うまく2者の意見が交わって、なだらかになっていくような、2者が連携した、より良いプログラムの内容になれば良い。</p>
森田委員長	<p>連携の仕方ということ。プログラムの中に一つひとつ落とし込むには限界があるが、やはり連携の中で、やっていかなければいけないということで、連携の内容も入れることができれば。</p>
長谷川委員	<p>職員がプログラムを組んで打ち合わせをすると、ファシリテーターオンリー的な部分が見え隠れすることがある。特に、初めてファシリテーターであると、プログラムのマニュアルの枠にはまりすぎている。すごく堅苦しい文言にするわけではなく、うまく連携をとりながら、ということも視野にいただければ。</p>
森田委員長	<p>現行のプログラムで6、7ページが活用について言及しているが、ここをもっと充実させる。アイスブレイクとは何かとか、大事なことは、指導するのではなく聞くことである、ということなど、現行のプログラムでは少し触れられているだけなので、ファシリテーター養成講座でいつも伝えていることを入れられたら。</p> <p>また、運営する中での公民館職員の苦労や、グループの中でのリーダーが苦労されていること、ファシリテーターの位置付けについてはどこにも言及がないので、今回の改訂では入れていけたら。ファシリテーターや職員の理解が人により異なっているところを、プログラムで示せば、共有できると思う。</p> <p>次に（3）改訂に係るアンケート結果について、事前に送られて</p>

	いる資料だが、改めて、事務局からのご説明をお願いしたい。
--	------------------------------

協議事項（3）改訂に係るアンケート結果について【資料5】に基づき、生涯学習総合センターより説明、協議事項を検討。

森田委員長	<p>田中委員からの質問であった、今あるものをそのまま一つひとつ改訂していくのか、それとも今後ある程度絞った上で、付け加えを行うのかどうかについても、先に検討したい。プログラムの一つひとつの内容に関するアンケート回答は、それぞれのプログラムに反映されるもので。最後の項目に親の学習事業全般に向けてアンケートをとっているが、そのまとめを先にご説明願えるか。</p>
田中委員	<p>このアンケートの中で、割と対立している意見が出ている。例えばファシリテーターの意見であれば、連携を取るために公民館職員と打ち合わせをしたいが、場をもってもらえない時もある。プログラムに関して、相談に乗っていただけない。逆に公民館側からは、ファシリテーターは2人いないのではないかという意見も出ている。</p> <p>ファシリテーターが2人である意義について時々考えるが、それは万が一自分に何かあった場合ということ。今回もコロナがあり、もし私自身がPCR検査を受けなければいけなくなった場合、もう1人のファシリテーターが行くという、万が一の場合もある。そのファシリテーターの立場をいらないとなると、地域との繋がりやの橋渡しになっている私達の立場がどういうふうになっていくのかという思いもある。</p> <p>今回一つひとつのプログラムは内容に入ると具体的になるので、今日は大まかな立ち位置を聞かせていただきたい。</p>
西川副委員長	<p>アンケート結果があつたら、その結果がどうであったかを共有することが手順。現場のファシリテーターの方の意見だけでも、公民館職員の方の意見だけでも決めるわけではないし、市としての方針との兼ね合いの中で決めるものだと思う。何がこの5年間、改訂して以降の成果だったのか、問題だったのかということを抑えた上で、方針に合わせて、Sグループの皆さんに、その方針に合わせてアンケートを細かくしたワークの改訂なり、マニュアルの改訂なりを行ってもらおうという順番があつたと思う。</p> <p>ただ先行して、既に細かい改訂はほぼやっていたので、どういう方針で変えたのか、何を根拠に変えたのかというところを説明して欲しい。資料2の改訂のポイントが、前回の改訂のものであれば、今回のポイントは何かということをお聞きしたい。</p> <p>ワークも色々な視点があり、自分の好みで、これがあるとかい</p>

	<p>ないとか。一人ひとりの好みが違うが、その好みを話そうとしているわけではない。何を必要とし、主としていくかを議論しようとしているので、選ぶ優先順位のポイントは、この改訂のポイントになる。このポイントに沿っての意見でなければ、個人の好き嫌いでこのワークを入れる、このワークがもっと大事だということになる。そのポイントの根拠にするのは、もちろん現場の声もあるし、市としての大きな方針もある。多分両方あるので、それを示していただきたい。ないのであれば、一旦アンケートがどのような傾向だったかを議論した上で、それぞれのワークが本当に削除できるかどうかということ、検討すべきではないか。</p>
田中委員	<p>意見を集約するのにアンケートを読み込もうとしたが、意見をまとめるのが難しいと思った。この傾向から、改訂のポイントが見つかるのか否か疑問がある。</p> <p>人を集めなければいけないから、抱き合わせ講座を行うことはいいと思うが、親学としての時間は最低でも45分から60分はキープしたいと考えると、70分のプログラムマニュアルが実態に合っていないのは本当である。</p> <p>アンケートの意見から方向性を決めていくのも、一つではないかと思うが、方向性やその集約の仕方は、課題かと。</p>
岡事業・企画係主事	<p>アンケートの後半にいただいた、親の学習事業の全体や運営に関するご意見は、ファシリテーターフォローアップや公民館担当職員研修などにおいて、お答えできる範囲で別途ご説明申し上げるため、協議会での議案としては想定がなく、今すぐにご用意ができないので、次回の改訂協議会に、お示しをさせていただきたい。</p>
森田委員長	<p>第2回改訂協議会までに、何をしていくかを少し、考えておきたいと思っていて、方針等をもんだ後に、方針を頭に入れつつ、Sグループの皆さんが手を入れているものについて、説明を聞き、ご意見をそれぞれから何う形で進める形でよろしいか。組み合わせ講座の場合の導入や、ねらいを言うか言わないか、対象を一つひとつのワークに落とし込むかどうかという話もあるが、その辺はあまり考えず。</p>
田中委員	<p>一つひとつのプログラムの検討の前に、ファシリテーターについての部分で、先ほどの公民館との連携の仕方にしても、最初は本当にわからない事ばかりで、ペアになった先輩ファシリテーターからの口伝えという部分が多くあるので、この部分もしっかりと決め、プログラムに明記しておくことが大切だと思う。そうすれば、こう書いてあるのだからと、公民館職員との連携も取りやすく、職員もファシリテーターへの対応がしやすくなるのではと思う。</p>
長谷川委員	<p>ファシリの位置付けは重要。ファシリテーターによっては、話し</p>

	合いが講義や講演のようにになっている様子が見られる。それも含め、ファシリテーターの位置付けがプログラムに言葉で書いてあると良い。
森田委員長	現行プログラムでは8ページくらいまで当初プログラムと変わらないが、当初プログラムに掲載があった対象別の展開例や振り返りシートが現行プログラムではなくなっている。それを今回の改訂では落とし込んだ方がいいのではないか。現行プログラムの10ページに実施例が入っているが、現実の講座とこれは、一致しているのか。
岩崎馬宮公民館長	地区館に聞き取りをして、パターンをまとめてみた。11ページは、組み合わせ例を実際に上げていき、12、13、14ページが、参加人数の多い成功例ということで、他の職員から参考になるようにやっていたと記憶している。
森田委員長	例えば、現行プログラムの12ページは、具体的にチラシが上がっているが、実際この講座でファシリがどんなふうに関わったかは書かれていないので、具体的に2時間のプログラムで、キャンペーンインストラクターがいて、ファシリテーターがどう関わるのかが、よくわからない。公民館側も、ファシリテーター側もより具体的に共有しやすいような表記があると良い。
西川副委員長	ファシリテーターは何名か。
有江主幹兼事業・企画係長	現在84名。
西川副委員長	市としても親の学習プログラムは続けていくのか。
中村参事兼副館長	親の学習事業は、さいたま市の最上位計画である総合振興計画、また、市教育委員会が独自に策定する教育振興基本計画にも位置付けられている、市の重要事業であるため、続けていく。
西川副委員長	公民館職員の専門性を考えると、本来、ファシリテーターの仕事を職員ができてもおかしくない。プラス、市民の方を募集してお願いをしている。今の位置付けで良いか。なぜ市民に関わってもらうのか。例えば、公民館職員が、私はファシリテーターできますよと言えば、やってもよいのか。
中村参事兼副館長	基本的には、公民館職員は講座の企画者として、ファシリテーターと一緒に事業を行っていく。また、親の学習実施要綱において、養成講座への出席など、ファシリテーターとなり得る登録要件が定められている。
丹野委員	ファシリテーター制度ができた目的、親の学習事業においてファシリテーターはどのような役割を果たすために作られたのか。
中村参事兼副館長	主催である公民館と共に、運営にご協力いただくという役割を認識している。

丹野委員	<p>公民館職員だけでなく市民のボランティアを養成する方針をとったのはなぜか。</p>
中村参事兼副館長	<p>市民の方と協働で行うことが、一つ大きなテーマだと思う。主催の公民館と共に、講座の運営にご協力いただくという事かと。</p>
西川副委員長	<p>それだと公民館職員が忙しいため、市民に手伝ってもらおうということになる。このプログラムのファシリテートくらいはやるのが本来の公民館職員の専門性だと考える。絶対公民館職員がやるべきだというわけではないが。</p> <p>しかし市民にファシリテーターになってもらって、関わってもらったのならその意味が何かということ、プログラムに明確に書いておかないと。公民館職員がファシリテーターを頼むとき、或いは市民のファシリテーターがやりたいという時に、なぜ行うかに関しての合意ができない。職員にしてみれば自分でできるが、ボランティアに関わってもらおうということで余計に手間がかかると。</p> <p>しかしその価値があるから関わってもらおうということで、その価値が何かということを書いた方が、先ほどの議論が整理できるのではないかと。</p>
中村参事兼副館長	<p>先ほどの説明に語弊が生じていたら申し訳ないが、公民館職員が忙しいので市民の方をお願いをするという訳ではない。</p> <p>ご指摘の通り、このプログラムをファシリテーターになる方がご覧になった時に、自分の立ち位置を含めて、理解できるものでなければならぬと思う。</p>
森田委員長	<p>わかっている方もあるが、何でファシリテーターなのと、ややこしい人入れなければいけないのにみたい。ファシリテーターを受け入れる公民館側もそうだが、逆にファシリテーターの側の関わり方でも、私が上手に伝えられていないところがあるが、講師のような振る舞いをするという事だと、伝わり方が違う。そのような部分も文章としてプログラムに落とし込みたい。</p>
長谷川委員	<p>ファシリテーターと職員の関係性が話題にあがっているが、職員とファシリテーターとが一つチームになって、講座を作り上げていくものという意識が必要。</p> <p>打ち合わせをするか否かについてもプログラムには言及がないため、人によってどちらでもよいではないかというとらえ方をされてしまう。ファシリテーターが協力する気持ちを持って行っても、職員の温度が低かったり。そういう温度差をできるだけなくしたい。</p> <p>親の学習講座において、何が失敗で成功かということは正直わからないが、上手くいかなかったとき、職員とファシリテーターとの連携がうまくいっていないというのが、おそらく一番の問題の原点だと思う。そこで、プログラムの中に、職員もファシリテーターも一緒にや</p>

	<p>りましょうという旨の言葉があれば、温度差がでている人に対しては、プログラムに書かれていることを基本として示せるので、2者の関係も改善できると思う。</p>
森田委員長	<p>講座回数が増え、ファシリテーターの各グループの運営問題や人材問題もあるし、それはあるが、職員とファシリテーターが連携してチームで動ければ乗り越えていけそうだという話もある。</p> <p>養成講座で、親の学習講座が成功するかどうかは準備、プログラムは準備の段階から始まっているという話をするため、そのような運営に関する部分についてプログラムに落とし込むとよいのではないかと。</p> <p>質問は、講座のポイントや、想定される場面や対処法、組み合わせ講座などを別冊資料にという話があるが、別冊資料を作る方向か、それともプログラムの中に入れ込むのか。</p>
岡事業・企画係主事	<p>別冊資料の作成についても、ご協議いただき、ご意見を伺いたい。親の学習プログラム改訂研修の中では、別冊という案が出たため、提案という形で出させていただいた。</p> <p>別冊に入れるものの例を挙げると、ワーク5「スマホの使い方をどうしてる？」の対象別のアレンジで、未就学の子の親を対象にする際は、子どもをあやすおもちゃとしてのスマホの使い方、小・中学生の親を対象にする際は子ども自身が使う際のスマホの使い方。このように、対象によりワークシートの設問が大幅に変わる場合、アレンジ例をプログラムの中に落とし込んで良いか、別冊を作成するかどうかということについて、委員の皆様にご意見を伺いたい。</p>
岩崎馬宮公民館長	<p>現行プログラムの11ページに組み合わせのパターンが示されているが、新人の公民館職員がこれを見ただけでは分からないため、ヒント集みたいなものが出来たらと。例えば、ワーク15では絵本セラピーや図書館とのコラボ、ワーク16ではスクラップブックが合う、といったヒント集みたいなものを別冊で示す。加えて、親の学習講座に参加した人にどう変わってほしいか、職員はどういう事望むのかといったゴールは、プログラムには落とし込めないで、別冊として作成すれば職員も使いやすく、ファシリテーターも話が深まるのではないかと。</p>
西川副委員長	<p>例えば、それぞれの経験から出てくるものはすごくいい。年代や対象や人数によつての組み合わせの経験談は知りたい。その中で一つ選んで、やってみるといことができる。せっかく作成するならば、担当者の名前入りであると、電話して様子を聞ける。そういう、プログラムそのものの使い方をサポートしてくれるような、別冊なり、仕組みがあると良い。</p> <p>ファシリテーターを位置付ける際、ファシリテーターはこうでなくちゃいけないとか、必ず相談しなさいということではなく、相談しな</p>

	<p>きやいけないから相談することが良い連携かといえばそうでもない。具体的にいい相談や対応が進むようにするには、経験談のようなものがむしろ大事である。</p>
長谷川委員	<p>現行プログラムで成功事例が12ページからあるが、この後に講座を实践して職員としてどうだったという、成功事例の裏話的な別冊があっても良い。さらに、チラシ、実施計画書、報告書などを別冊に入れ込むと、いいものができるのでは。</p>
田中委員	<p>多分、ファシリテーターも、講座の時には進行案のようなものを各自で作成し、持っている。講座が上手くいった場合、別冊に進行案を載せると声をかけても良い。それだけでなく、具体的な時間配分なども講座で習うので、それも別冊資料とすると、次に担当するファシリテーターや、公民館職員が見ることができる。今の報告書は、文字が多くどこを見れば良いか分からないので、簡単な流れがあった方が、資料として適している。</p>
森田委員長	<p>別冊資料が毎年の工夫で更新されていくとさらに良い。また、発表する機会などもあると皆がブラッシュアップされていく。</p> <p>ファシリテーターフォローアップを年1回やっているが、必ずしも全員が出てはいない。出ない人はずっと出ていないという状況がある。スキルアップためにも、出ない人にも補完できるような資料として、積み重ねていくと良い。打ち合わせを行い上手くいった事例の発表でも良いし、ぜひ、毎年経験値が更新され、共有できる資料があると良い。</p> <p>ファシリテーターフォローアップとしても、いいアイデアが出たので、そういう仕組みを作っていくことをプログラムや別冊に示すと良いと思うが、プログラムに示せば、その資料を毎年作成しなくてはならなくなる。それも含め、検討して欲しい。</p> <p>残りの時間で、素案の一つひとつの中身に細かく手を入れているものではなく、削除の方針のものがあれば、伺いたい。</p>
岡事業・企画係主事	<p>まず素案において削除になっているワーク。親の学習プログラム改訂研修で作成した素案の段階では、ワーク11、12、13の、観点が似ているワークは統合した方が良いというアンケート結果に基づき、削除となった。ワーク11は、ワーク10の中に「自分の子育て宣言」を入れ込んだ。父親だけでなく幅広い層で使用できるワークとなるよう、統合という形をとった。ワーク12、13も同様の理由で、父親対象というところで、今、父親対象講座に母親や祖父母がくることもあり、あえて父親と言わずとも、講座のアレンジの中で対象を絞るという形で、パパや父親などと限定が入っているワークところについてはワーク10に統合した。次にワーク20については、ロールプレイが難しいというアンケート結果より、ワーク21の場面設定のロ</p>

	<p>ールプレイを多く残す形で統合とした。ワーク 2 4 についても同様に、ワーク 2 5、2 6 との統合を提案する。ワーク 2 7 については、地域を考えるワーク 1 4 と似ているという観点から、統合とした。</p>
森田委員長	<p>パパという区別はもう残さず、保護者として統合する、似ているものは統合するという案が出ている。方向性としては、削除の部分の検討や、丹野委員がおっしゃった、例えば貧困などのテーマの追加について、なにかご提案はあるか。</p>
丹野委員	<p>削除の部分について、パパ・父という名前などは、出すことの意味もあるし、出さないことの良さもあると思うので、そこは慎重に検討した方が良い。子育てイコール女性というのは、いまだに根強いので、それを覆すという意味では、やはり父親が参加しやすい企画は重要。ただ行ったら女性だけだったらどうしようという不安はあるのではということも思った。</p> <p>また、親の学習プログラムのワークはパパ・ママ応援プログラム、自分発見プログラム、ネットワークづくりプログラムという柱があるが、統合するとネットワークづくりプログラムが1つになってしまうが、どうするか。或いはもう、1つだけにしてしまうか。やり易い・やり難いだけでなく、柱をどう構成にしていこうかという検討のもとで、統合するかどうかなどは考えた方が良い。</p>
西川副委員長	<p>もしデータがあれば、それぞれのワークが何年間で何回行われたかという、人気のある・なし、やり易い・やり難いを知りたい。改訂するときには、やらなかったとか、やろうとしたがうまくいかないということと、市の方針とを合わせて改訂していかなければならないと思う。</p> <p>さきほどの協働の話もあり、現場で、このプログラムが使えるというふうに、使っていってもらうのが一番幸せな形。経験値を多く持つファシリテーターが、この場合はこうした方が良いという経験を持って公民館職員と関わって、プログラムが勝手に変更されて使われているぐらいの方が現場ではちょうどいい。ファシリテーターと職員の知恵の中でどんどん変えていけばいいのになど。どちらかという経験値の方が、役に立ったりするということなのかなど。</p>
森田委員長	<p>今日いただいた意見で、事務局と一緒に進めていく。次回、方針や方向性についても案を出させていただけたら。</p>

1 0 その他

今回は、令和 2 年 1 1 月 5 日（木）午後 2 時 0 0 分より生涯学習総合センター 7 階講座室 1・2 にて、また、第 3 回改訂協議会は令和 3 年 3 月 5 日（金）に開催予定であることを確認した。

1 1 閉会